

難病につながるわけであるが、これと言って喫煙と難病との関係を否定するものではないことには注意を要する。

今回の検討のもう1つの問題点は、難病の中にはICDコードで特定できることもあるが、しばしば1つの基本分類コードの中に2つ以上の病態が含まれ、その一方が難病である、ということがある。また、筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症および原発性側索硬化症は、ICD10では、G12.2運動ニューロン疾患の一部であり、死因統計を作成する際には区別できないことがある。そのため、ある死因コードのうちの何パーセントをある難病が占めるかもわからないのである。しかし、幸いなことにICDコードは次第に詳細なものになっており、この問題は徐々に緩和されるであろう。

E. 結論

「世界の難病死亡統計1994-2006年」とWHOによる「たばこアトラス」に基づき、62か国の96疾患の難病について、性別に年齢調整死亡率と喫煙率の関連性を検討した。その結果96疾患の難病を、(1)男女とも有意で、相関係数の正負が同じ難病(4疾患)、(2)男女の一方は有意であり、他方も相関係数はほぼ同等な難病(3疾患)、(3)男女の一方は有意であるが、一方はほとんど相関がみられない難病(10疾患)、(4)有意な関連が観察されたが、男女一方のみのデータしかない難病(2疾患)、(5)男女の一方は有意であるが、他方の相関係数はやや大きく、かつ正負が逆な難病(3疾患)、(6)個人を観察単位とする疫学研究では関連が知られているが、本研究においては有意な関連が見られなかった難病(7疾患)、(7)外れ値を除くと有意ではなくなる難病(5疾患)、および(8)男女ともに有意な関連のみられなかった難病(69疾患)に分類することができた(重複を含む)。バージャー病のように因果関係がありそうな疾患もあるが、個人別の疫学研究においてリスクの上昇等が観察されていても国別の関連性の結果では実証されないこともあった。また、多くの難病は男女とも喫煙率との有意な関連を示さなかったが、このことが喫煙との因果関係を否定するものではない。

文献

1) 簗輪眞澄, 永井正規. 世界の難病死亡統計: 1994-2006年. 厚生労働科学研究費補助金難

治性疾患克服研究事業特定疾患の疫学に関する研究班. 2010.

- 2) 簗輪眞澄, 永井正規. 「世界の難病死亡統計: 1994-2006年」の刊行. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業特定疾患の疫学に関する研究班, 平成21年度総括・分担研究報告書. p253-262. 2010.
- 3) 新版健康と健康—喫煙と健康問題に関する検討会報告書. 保健同人社, 2002.
- 4) 日本公衆衛生協会翻訳発行, たばこアトラス. 2003. 原典: Mackay J, Erikseb M. WHO. 2002. The Tobacco Atlas.
- 5) 金光正次ら. 疫学とその応用. 南山堂, 1966.
- 6) 厚生労働省大臣官房統計情報部. 疾病、傷害および死因分類統計分類提要 (ICD-10 (2003年版) 準拠, 第2巻内容例事表. 厚生労働省大臣官房統計情報部, 2005.
- 7) Rahman M, et al. Association of thromboangitis obliterans with cigarette and bidi smoking in Bangladesh: a case-control study. *Int J Epidemiol* 2000;29:266-270.
- 8) Heliövaara, et al. Smoking and risk of rheumatoid arthritis. *J Rheumatol* 1993;20:1815-1816.
- 9) Uhlig T, et al. Current tobacco smoking, formal education, and the risk of rheumatoid arthritis. *J Rheumatol* 1999;26:47-54.
- 10) Carlens C, et al. Smoking, use of moist snuff, and risk of chronic inflammatory diseases. *Am J Respir Crit Care Med* 2010;181:1217-1222.
- 11) Fang F, et al. Smoking, snuff dipping and the risk of amyotrophic lateral sclerosis—a prospective cohort study. *Neuroepidemiology* 2006;27:217-221.
- 12) Armon C. Smoking may be considered an established risk factor for sporadic ALS. *Neurology* 2009;17:73:1693-1698.
- 13) Valeyre, et al. Smoking and pulmonary sarcoidosis: effect of cigarette smoking on prevalence, clinical manifestations, alveolitis, and evolution of the disease. *Thorax* 1988;43:516-524.
- 14) Calkins BM. A meta-analysis of the role of smoking in inflammatory bowel disease. *Dig Dis* 1989;34:1841-1845.
- 15) Lakatos PL. Environmental factors affecting inflammatory bowel disease: Have we made progress? *Dig Dis* 2009;27:215-225.
- 16) Kakafika et al. Smoking and aortic diseases. *Circ J* 2007;71:1173-1180.
- 17) Riis T, et al. Smoking is a risk factor for multiple sclerosis. *Neurology* 2003;61:1122-1124.

- 18) Miguel A, et al. Cigarette smoking and incidence of multiple sclerosis. *Am J Epidemiol* 2001;154:69-74.
- 19) 蓑輪眞澄ら. ニコチン/喫煙に疾病予防効果はあるか? *公衆衛生研究* 1998;47:29-38.
- 20) Ritz B, et al. Pooled analysis of tobacco use and risk of Parkinson disease. *Arch Neurol* 2007;64:990-997.
- 21) Costenbader H, et al. Cigarette smoking and systemic lupus erythematosus: A smoking gun? *Autoimmunity* 2005;38:541-547.

F. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

- 1) 蓑輪眞澄, 永井正規. 各国における喫煙率と難病死亡率の関連の検討; まずはパーキンソン病から. 第21回日本疫学会学術総会、札幌 (2011.1.21-22). *J Epidemiol* 2011;1 Suppl:p222.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

IV. 事務局記録

事務局の活動記録および会議開催状況

(平成23年2月28日現在)

平成22年	4月	1日	平成22年度国庫補助金内示
	5月	26日	厚生労働省より補助金交付決定通知
	6月	7日	厚生労働省より補助金交付
	6月	16・17日	第1回総会・研究分担者会議(川越)
	9月	16日	プロジェクトリーダー会議
	12月	1・2日	第2回総会・研究分担者会議(川越)

V. 平成 22 年度総会プログラム

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
特定疾患の疫学に関する研究班
平成22年度第1回総会プログラム

日時： 平成22年6月16日（水） 10：30 ～ 16：00
17日（木） 9：30 ～ 14：00

場所： 埼玉医科大学かわごえクリニック6階
大会議室

研究代表者 永井 正規

特定疾患の疫学に関する研究班

事務局：〒350-0495

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

埼玉医科大学医学部公衆衛生学教室

TEL：049-276-1171（直通）

FAX：049-295-9307（直通）

第1日目 6月16日(水)

研究代表者挨拶 10:30～10:40

厚生労働省挨拶 10:40～10:50

今年度の研究成果の発表 午前の部 10:50～12:00

司会：杉田 稔 10:50～12:00

1. 臨床調査個人票データベースを利用した記述疫学

1. 臨床調査個人票の系統的解析（研究計画）

太田晶子、仁科基子、永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

2. 特定疾患医療受給者の性・年齢分布の変化：1984～2008年（研究計画）

太田晶子、仁科基子、永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

3. パーキンソン病医療受給者への脳血管疾患等の混入の可能性について

井戸正利（大阪府健康づくり課兼国民健康保険課兼介護支援課）

太田晶子、仁科基子、永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

近藤智善（和歌山県立医科大学・神経内科学）

中野今治（自治医科大学・神経内科学）

4. 臨床調査個人票を用いた原発性胆汁性肝硬変（PBC）症例の経時的変化の検討

坂内文男、大浦麻絵、野島正寛、大西浩文、森 満

（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

5. 臨床調査個人票による劇症肝炎の臨床疫学像

臨床調査個人票に記載された一般採血データを利用した

超急性期型劇症肝炎における高度肝性昏睡発症のリスク因子の探索

野島正寛、大西浩文、坂内文男、森 満（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

昼食（事務連絡） 12:00～13:00

今年度の研究成果の発表 午後の部

13:00～16:00

司 会：森 満

13:00～13:45

I. 臨床調査個人票データベースを利用した記述疫学（つづき）

6. 強皮症の予後因子探索を目的とした疫学研究の計画

野島正寛、大西浩文、坂内文男、森 満（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

7. 臨床調査個人票および医療意見書を用いたライソゾーム病受給者の疫学調査

坪井一哉（名古屋セントラル病院・血液内科）

鈴木貞夫（名古屋市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学分野）

永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

8. 臨床調査個人票による特発性大腿骨頭壊死症の記述疫学

－平成20年度集計結果－

小林真之、武知茉莉亜、福島若葉、廣田良夫

（大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学）

中村博亮（大阪市立大学大学院医学研究科・整形外科学）

山本卓明、岩本幸英（九州大学大学院医学研究院・整形外科学分野）

司 会：川村 孝

13:45～14:30

II. 患者フォローアップ調査

9. わが国の拡張型心筋症の予後と予後要因

－全国疫学調査 10年後予後調査より－

中川秀昭、櫻井 勝、中村幸志、森河裕子（金沢医科大学・公衆衛生学教室）

松森 昭（京都大学大学院医学研究科・循環器内科学）

10. 特定疾患患者の地域ベース・コホート研究－今年度の研究計画－

丹野高三、坂田清美（岩手医科大学医学部・衛生学公衆衛生学講座）

松田智大（国立がんセンター統計部・地域がん登録室）

新城正紀（沖縄県立看護大学・公衆衛生学・疫学）

三徳和子（川崎医療福祉大学・医療福祉学部）

眞崎直子（日本赤十字広島看護大学・地域看護学領域）

平良セツ子（沖縄県宮古保健所）

11. パーキンソン病患者の抑うつ症状と摂食・嚥下障害との追跡研究の中間報告

韓 萌、大西浩文、森 満（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

野中道夫（札幌山の上病院神経内科）
山内理香、保月隆良、林 貴士、久原 真、今井富裕、下濱 俊
（札幌医科大学医学部・神経内科学講座）

1 2. IgA 腎症の長期予後に対する副腎皮質ステロイド剤の効果

後藤雅史、川村 孝、安藤昌彦（京都大学保健管理センター）
若井建志（名古屋大学大学院医学系研究科・予防医学/医学推計・判断学）
遠藤正之（東海大学医学部腎代謝内科）
富野康日己、松崎慶一（順天堂大学医学部腎臓内科）

．．． 休憩 15分 ．．．

司 会：川村 孝

14:45～15:15

Ⅲ. 全国疫学調査

1 3. 家族性地中海熱－全国疫学調査進捗状況

上原里程、中村好一（自治医科大学・公衆衛生学）
右田清志（国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター）
永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

1 4. 先天性魚鱗癬様紅皮症（水疱型除く）及び魚鱗癬症候群の全国疫学調査経過報告

黒沢美智子（順天堂大学医学部・衛生学）
池田志孝（順天堂大学医学部・皮膚科）
上原里程、中村好一（自治医科大学・公衆衛生学）
永井正規、太田晶子（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）
岩月啓氏、大野貴司（岡山大学医学部皮膚科）
稲葉 裕（実践女子大学・生活科学部）

司 会：土井由利子

15:15～16:00

Ⅳ. 世界の難病死亡

1 5. 世界の難病死亡統計（1994-2006）の記述

簗輪真澄（元国立保健医療科学院・疫学部）
永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

1 6. 各国における喫煙率と難病死亡率との関連の検討

箕輪眞澄（元国立保健医療科学院・疫学部）

永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

V. 症例対照研究

1 7. 筋萎縮性側索硬化症発症関連要因解明に関する症例対照研究

岡本和士（愛知県立大学看護学部・公衆衛生学）

紀平為子（関西医療大学・保健医療学部）

小久保康昌（三重大学医学部・神経内科）

小橋 元（放射線医学総合研究所）

鷺尾昌一（聖マリア学院大学）

阪本尚正（兵庫医科大学・衛生学）

佐々木 敏（東京大学大学院医学系研究科・社会予防疫学）

三宅吉博（福岡大学医学部・公衆衛生学）

横山徹爾（国立保健医療科学院・人材育成部）

稲葉 裕（実践女子大学・生活科学部）

永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

第2日目 6月17日(木)

今年度の研究成果の発表 午前の部

9:30~14:00

司会：廣田良夫

9:30~11:15

V. 症例対照研究(つづき)

18. 全身性エリテマトーデス(SLE)発症に関連する食事因子

近江雅代(中村学園大学)

鷲尾昌一、井手三郎(聖マリア学院大学)

清原千香子、堀内孝彦、塚本 浩、原田実根、赤司浩一(九州大学大学院)

浅見豊子、佛淵孝夫、多田芳史、長澤浩平(佐賀大学)

西坂浩明(北九州市立医療センター)

澤部琢哉(広島赤十字・原爆病院)

城田知子(中村学園大学短期大学部)

廣田良夫(大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学)

永井正規(埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

19. 全身性エリテマトーデスの症例対照研究

— Kyushu Sapporo SLE(KYSS) Study —

鷲尾昌一(聖マリア学院大学)

横山徹爾(国立保健医療科学院・人材育成部)

清原千香子、堀内孝彦、塚本 浩、原田実根、赤司浩一(九州大学大学院)

浅見豊子、佛淵孝夫、多田芳史、長澤浩平(佐賀大学)

児玉寛子、井手三郎(聖マリア学院大学)

小橋 元、太田薫里(放射線医学総合研究所)

岡本和士(愛知県立大学看護学部・公衆衛生学)

阪本尚正(兵庫医科大学・衛生学)

佐々木 敏(東京大学大学院医学系研究科社会予防疫学)

三宅吉博(福岡大学医学部・公衆衛生学)

大浦麻絵、鈴木 拓、森 満、高橋裕樹、山本元久、篠村恭久(札幌医科大学)

阿部 敬(市立釧路総合病院)

田中寿人(田中病院)

野上憲彦(若楠療育園)

渥美達也、堀田哲也、保田晋助、片岡 浩、小池隆夫(北海道大学大学院)

近江雅代、城田智子、内田和宏、友納恵美子(中村学園大学)

深澤圭子(名寄市立大学)

豊島泰子(四日市看護医療大学)

廣田良夫(大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学)

稲葉 裕(実践女子大学・生活科学部)

永井正規(埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

20. 循環器リスク、抗酸化物質、LRRK2 多型とパーキンソン病との関連

三宅吉博、田中景子（福岡大学医学部・公衆衛生学）
清原千香子（九州大学大学院医学研究院・予防医学）
藤本崇宏、小柳緑、白澤専二（福岡大学医学部・細胞生物学）
福島若葉、廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学）
佐々木 敏（東京大学大学院医学系研究科・社会予防疫学）
坪井義夫、山田達夫（福岡大学医学部・内科学第五）
三木隆己（大阪市立大学大学院医学研究科・老年内科学）
福山秀直（京都大学大学院医学研究科附属高次脳機能総合研究センター）
吉良潤一、栄 信孝（九州大学大学院医学研究院・神経内科）
谷脇考恭（久留米大学医学部内科学講座）
紀平為子（和歌山県立医科大学神経内科）
大江田知子（国立病院機構宇多野病院神経内科）
藤井直樹（国立病院機構大牟田病院神経内科）
藤村晴俊（国立病院機構刀根山病院神経内科）
杉山 博（国立病院機構南京都病院神経内科）
齋田恭子（京都市立病院神経内科）
永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

21. 潰瘍性大腸炎のリスク因子に関する多施設共同・症例対照研究（進捗状況）

大藤さところ、福島若葉、廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学）
押谷伸英、渡辺憲治（大阪市立大学大学院医学研究科・消化器器官制御内科）
長堀正和、渡辺 守（東京医科歯科大学・消化器病態学）
The Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis

22. 小児炎症性腸疾患の発症関連要因・予防要因の解明； 母児の生活習慣と遺伝子多型に関する症例・対照研究

小橋 元、太田薫里（放射線医学総合研究所）
岡本和士、吹田麻耶（愛知県立看護大学・公衆衛生学）
鷺尾昌一（聖マリア学院大学）
杉森裕樹（大東文化大学）
片平冽彦（新潟医療福祉大学）
白石弘美（人間総合科学大学）
若井建志、前川厚子、青山京子、竹井留美（名古屋大学）
伊藤美智子、高添正和（社会保険中央総合病院）
内山 幹（慈恵医大柏病院）
羽田 明（千葉大学）
窪田 満（手稲溪仁会病院）
日本小児 IBD 疫学研究グループ（仮称）

23. 混合性結合組織病の症例対照研究

鷺尾昌一（聖マリア学院大学）
廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学）

永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）
清原千香子、堀内孝彦（九州大学大学院）
多田芳史、長澤浩平（佐賀大学）
小橋 元（放射線医学総合研究所）
岡本和士（愛知県立大学看護学部・公衆衛生学）
森 満、高橋裕樹（札幌医科大学）
渥美達也（北海道大学大学院）
近江雅代（中村学園大学）
深澤圭子（名寄市立大学）
豊島泰子（四日市看護医療大学）
田中廣壽（東京大学医科学研究所）
川畑仁人（東京大学）
高崎芳成（順天堂大学）
桑名正隆（慶應義塾大学）
岡田 純（北里大学）
川口鎮司（東京女子医科大学）
吉田俊治（藤田保健衛生大学）
三森明夫（国立国際医療センター）
藤井隆夫、三森経世（京都大学大学院）

2 4. 特発性大腿骨頭壊死症の発生関連要因に関する
多施設共同症例・対照研究（進捗状況）

福島若葉、廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学）
山本卓明、岩本幸英（九州大学大学院医学研究院・整形外科学分野）
中村博亮（大阪市立大学大学院医学研究科・整形外科学）

司 会：土井由利子

11:15～12:00

VI. 行政資料による特定疾患の頻度調査

2 5. 行政資料による特定疾患の頻度調査－死亡統計を用いた検討－

土井由利子（国立保健医療科学院・研修企画部）
横山徹爾（国立保健医療科学院・人材育成部）

2 6. 患者調査による難病の受療状況

横山徹爾（国立保健医療科学院・人材育成部）
土井由利子（国立保健医療科学院・研修企画部）

研究代表者のまとめ

12:00～12:30

昼 食（事務連絡）

12:30～13:30

研究分担者会議

かわごえクリニック 6階小会議室

12:30～14:00

（会場は午後も使用可能です。研究打ち合わせ等にご利用下さい。）

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
特定疾患の疫学に関する研究班
平成22年度第2回総会プログラム

日 時： 平成22年12月1日（水） 10：30 ～ 17：30
2日（木） 9：30 ～ 14：30

場 所： 埼玉医科大学かわごえクリニック 6階
大会議室

研究代表者 永井 正規

特定疾患の疫学に関する研究班

事務局：〒350-0495

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

埼玉医科大学医学部公衆衛生学教室

TEL：049-276-1171（直通）

FAX：049-295-9307（直通）

第 1 日 目 1 2 月 1 日 (水)

研究代表者挨拶 10:30～10:40

厚生労働省挨拶 10:40～10:50

今年度の研究成果の発表 午前の部 10:50～12:00

司 会：杉田 稔 10:50～12:00

1. 臨床調査個人票データベースを利用した記述疫学

1. 臨床調査個人票の入力状況 (2010 年 6 月現在)

太田晶子、仁科基子、永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

2. 特定疾患医療受給者の性・年齢の変化

太田晶子、仁科基子、永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

3. 特定疾患医療受給者の就労割合の変化 (2003～2009 年度)

仁科基子、太田晶子、永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

4. 特定疾患医療受給者の受給中止理由調査

木下直子、高石和子、大槻春美、堀忍、濱田芳枝、宮田淳子 (京都府山城北保健所)
太田晶子、永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

5. パーキンソン病医療受給者への脳血管疾患等の混入の可能性について

井戸正利 (大阪府立健康科学センター)
永井伸彦 (大阪府健康づくり課)
太田晶子、仁科基子、永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)
近藤智善 (和歌山県立医科大学・神経内科学)
中野今治 (自治医科大学・神経内科学)

昼 食 (事務連絡) 12:00～13:00

研究分担者会議 12:00～13:00

かわごえクリニック 6 階小会議室

今年度の研究成果の発表 午後の部

13:00～17:30

司 会：森 満

13:00～14:15

I. 臨床調査個人票データベースを利用した記述疫学（つづき）

6. 臨床調査個人票からみた再生不良性貧血の治療状況

島田直樹（昭和大学医学部・公衆衛生学）
杉田 稔（東邦大学医学部・社会医学講座衛生学）
中尾眞二（金沢大学大学院医学系研究科・細胞移植学）
小澤敬也（自治医科大学・内科学講座血液学部門）
永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

7. 臨床調査個人票を用いた原発性胆汁性肝硬変症例の検討；抗核抗体を要因とした解析

坂内文男、大浦麻絵、野島正寛、大西浩文、森 満
（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

8. 北海道における強皮症の地理的分布ならびに疫学的検討

野島正寛、大西浩文、坂内文男、森 満（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）

9. 臨床調査個人票および医療意見書を用いたライソゾーム病患者の疫学調査

坪井一哉（名古屋セントラル病院・血液内科）
鈴木貞夫（名古屋市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学分野）
永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

10. Budd-Chiari 症候群患者の予後関連因子－臨床調査個人票の集計結果－

大藤さところ、村井陽子、廣田良夫
（大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学）

司 会：川村 孝

14:15～15:00

II. 患者フォローアップ調査

11. わが国の肥大型心筋症の予後と予後要因－全国疫学調査 10 年後予後調査より－

中川秀昭、櫻井 勝、中村幸志、森河裕子（金沢医科大学・公衆衛生学教室）
松森 昭（京都大学大学院医学研究科・循環器内科学）

12. 特定疾患患者の地域ベース・コホート研究（進捗状況）

丹野高三、坂田清美（岩手医科大学医学部・衛生学公衆衛生学講座）
松田智大（国立がんセンター統計部・地域がん登録室）

新城正紀（沖縄県立看護大学・公衆衛生学・疫学）
三徳和子（川崎医療福祉大学・医療福祉学部）
眞崎直子（日本赤十字広島看護大学・地域看護学領域）
平良セツ子（沖縄県宮古保健所）

1 3. パーキンソン病患者の抑うつ症状と摂食・嚥下障害との関連
－ 3年間の結果のまとめ－

大西浩文、韓 萌、森 満（札幌医科大学医学部・公衆衛生学）
野中道夫（札幌山の上病院神経内科）
山内理香、保月隆良、林 貴士、久原 真、今井富裕、下濱 俊
（札幌医科大学医学部・神経内科学講座）

．．． 休憩 15分 ．．．

司 会：中村 好一

15:15～15:45

Ⅲ. 全国疫学調査

1 4. 家族性地中海熱およびフェール病（特発性両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症）
－全国疫学調査進捗状況

上原里程、中村好一（自治医科大学・公衆衛生学）
右田清志（国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター）
保住 功（岐阜大学大学院医学研究科・神経内科老年学分野）
永井正規（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）

1 5. 先天性魚鱗癬様紅皮症（水疱型除く）及び魚鱗癬症候群の
全国疫学調査患者数推計結果

黒沢美智子（順天堂大学医学部・衛生学）
池田志孝（順天堂大学医学部・皮膚科）
上原里程、中村好一（自治医科大学・公衆衛生学）
永井正規、太田晶子（埼玉医科大学医学部・公衆衛生学）
岩月啓氏、大野貴司（岡山大学医学部・皮膚科）
稲葉 裕（実践女子大学・生活科学部）

班研究6年間のまとめと今後の展望

司 会：川村 孝

15:45～17:30

1. 臨床調査個人票データベースを利用した記述疫学
2. 行政資料による特定疾患の頻度調査
3. 全国疫学調査
4. 症例対照研究
5. 患者フォローアップ調査
6. 定点モニタリングによる臨床像の把握
7. 世界の難病死亡

第2日目 12月2日(木)

今年度の研究成果の発表 午前部 9:30~12:00

司会：土井由利子 9:30~11:00

IV. 行政資料による特定疾患の頻度調査

16. 行政資料による特定疾患の頻度調査－死亡統計を用いた検討

土井由利子 (国立保健医療科学院・研修企画部)

横山徹爾 (国立保健医療科学院・人材育成部)

17. 患者調査による難病の受療状況

横山徹爾 (国立保健医療科学院・人材育成部)

土井由利子 (国立保健医療科学院・研修企画部)

V. 世界の難病死亡

18. 「世界の難病死亡統計：1994-2006：記述編」の作成

箕輪眞澄 (元国立保健医療科学院・疫学部)

永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

19. 各国における喫煙率と難病死亡率との相関の検討

箕輪眞澄 (元国立保健医療科学院・疫学部)

永井正規 (埼玉医科大学医学部・公衆衛生学)

VI. 定点モニタリングによる臨床像の把握

20. 定点モニタリングシステムによる特発性大腿骨頭壊死症の臨床像

－全国疫学調査、臨床調査個人票データベースとの比較－

福島若葉、廣田良夫 (大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学)

中村博亮 (大阪市立大学大学院医学研究科・整形外科学)

山本卓明、岩本幸英 (九州大学大学院医学研究院・整形外科学分野)

21. 神経線維腫症1 医療費補助開始から近年までの患者疫学像

縣 俊彦、柳澤裕之 (東京慈恵会医科大学・環境保健医学)

西川浩昭 (静岡県立大看護)

稲葉 裕 (実践女子大学)

黒沢美智子 (順天堂大学医学部・衛生学)

金城芳秀 (沖縄県立看護大学、大学院)

柳 修平 (東京女子医大、大学院)